

区 分 名： 看護実践を支える科目
科 目 名： 医療安全学
(英語名称： Medical Safety Science)

【担当教員】 黒田 るみ

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

医療の質を高めるために欠かせないのが、医療安全の確保である。医療事故の種類や構造、ヒューマンエラー発生のメカニズムについて、事例を通して読み解き、医療事故を防止するための基本的な考え方を学ぶ。さらに、医療安全に向けた組織的な取り組みを理解し、多職種連携の必要性への理解を深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 医療事故の定義と事故発生の要因および構造を説明することができる。
- 2) 事故発生のメカニズムとヒューマンエラーとの関連を説明できる。
- 3) 医療事故に関する法的な責任を説明できる。
- 4) 医療事故防止対策について、個人や組織、様々な立場から検討することができる。
- 5) 医療安全について、多職種連携の立場から検討できる。
- 6) 医療事故に関連する自身の傾向を知り、自分にできる事故防止対策を検討することができる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

1. 川野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー第2版 なぜ間違える どう防ぐ、医学書院、2014.
2. 川村治子：医療安全ワークブック第4版、医学書院、2018.
3. 松下由美子他編：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践②医療安全、メディカ出版、2021.

4. 福島県立医科大学医学部附属病院医療安全管理部発行：医療安全ポケットマニュアル（授業中に配布します）

【成績評価方法】

定期試験 50%、レポート（提出課題）・授業への参加態度 50%。

【その他（メッセージ等）】

実際に起きた過去の医療事故事例や、医療事故対策の現状をもとに、医療事故防止に必要な基礎的な知識を学びます。医療事故は、誰もが起こす可能性のあることです。

看護学生のうちから実践していける事故防止対策を授業内容に組み込んでいきたいと考えています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション 医療安全を学ぶ意義について	医療安全の歴史の概要、看護学を専門とする立場から医療安全を学ぶ意義
第2回	医療事故について	医療事故に関連する概念・用語について
第3回	医療事故報告について	医療事故報告について、医療事故事例の検討
第4回	医療事故発生の構造①	医療事故発生のメカニズム、医療事故の分析
第5回	医療事故発生の構造②	医療事故とヒューマンファクター工学
第6回	ヒューマンエラー①	ヒューマンエラーとは何か、モデルの概要
第7回	ヒューマンエラー②	ヒューマンエラー対策の戦略・戦術
第8回	医療事故防止対策①	環境への働きかけについて
第9回	医療事故防止対策②	KYT および医療安全研修について
第10回	医療安全とチーム①	ノンテクニカルスキルとチーム STEPPS
第11回	医療安全とチーム②	医療安全チームの取組の実際
第12回	医療安全に関連する法的責任と倫理①	外的規範と内的規範、医療安全に関連した法律および医療者側の法的責任
第13回	医療安全に関連する法的責任と倫理②	医療事故に関わった当事者および当事者を支える人々
第14回	組織的な事故防止対策①	組織的な医療安全、リスクマネージャーの役割について
第15回	組織的な事故防止対策②	看護学生に求められる医療安全への取組まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力和応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		定の要件である
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		